

梶田先生と振り返る思い出の一コマ

1974(昭和49)年、市制施行20周年を記念して市の木は「松」、市の花は「ぼたん」と制定されました。選定にあたっては市民投票を行い、いずれも投票数の7割以上を獲得した「松」と「ぼたん」に決定しました。木の候補は他に「イチョウ」「ケヤキ」「ナラ」などがあり、花の候補は「ツツジ」「ヤマコリ」「フクジュソウ」などがありました。

市民が自然とのふれあいを大事にするために市の象徴として指定されたんだよ!

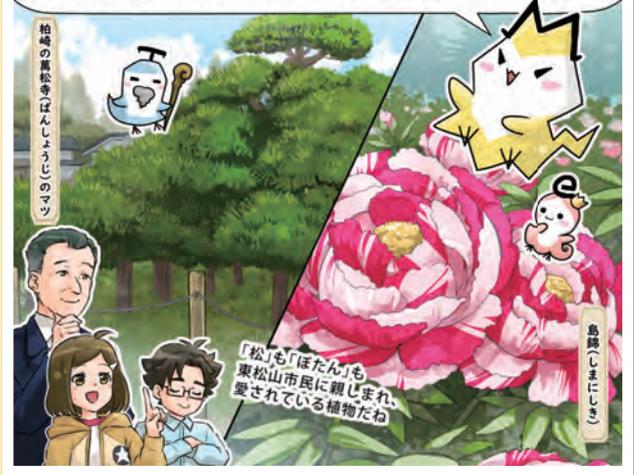


市のマスコットキャラクターも「松」と「ぼたん」をイメージしているんだよ

市の木「松」・市の花「ぼたん」制定

1974(昭和49)年

松は長命なことから「不老長寿の木」として知られ、ぼたんは古くから「花の王様」と呼ばれているよ



キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画『漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ』のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟



電ちゃん ミューやん タウっち

梨花(姉)



歩(弟)



梶田隆章先生



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所所長・教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。



しがほつやま キッズ集合!

おしえて『文化財』

文化財の保存 ~仏像の修理~

今回は、文化財を未来の市民に残していくための取組を紹介します。

取り上げるのは仏像です。仏像は、人々の篤い信仰心のもと大切に伝えられてきましたが、長い年月が経つとともに修理が必要となります。ただし、注意しなければならないのは、指定文化財の仏像は、新品に戻すような修理をするのではなく、これ以上壊れることを防ぐ現状維持のための修理をするということです。

また、修理することにより新たな発見があることもあります。国指定重要文化財「等覺院阿弥陀如来坐像」は昭和

26(1951)年の修理の際、建長5(1253)年に修理された銘が見つかり、市指定文化財「泉蔵寺十一面観音立像」は平成9(1997)年の修理で、仏師・関係者の名と天正3(1575)年に制作したという墨書銘に加え、前身のものと思われる仏像の頭部の断片が見つっています。

右の写真は平成22・23(2010・2011)年の市指定文化財「世明寿寺千手観音立像」の修理の際の写真です。大切にされ、修理が繰り返されていたことが分かりました。全体の汚れや埃を清掃し、解体した部材を洗い、失われた部分は新しくするなどして美しくなりました。



修理前
汚れや埃、亀裂や隙間などが見られ、欠損部分もあります。



鉄の釘や鏝を除去し、欠損部は新補しました。



修理銘札を内剝りに納めました。



修理後
表面を古色仕上げとし、光背・台座を新造して修理が終わりました。

問 埋蔵文化財センター
TEL 27-10333 FAX 27-10334